



(三田)

遺跡の年代 平安時代～鎌倉時代・江戸時代
遺跡及び木簡出土遺構の概要

- 1 所在地 兵庫県神戸市北区八多町上小名田
- 2 調査期間 一九八七年（昭62）八月～一九八九年（平1）八月
- 3 発掘機関 神戸市教育委員会
- 4 調査担当者 菅本宏明・富山直人
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 平安時代～鎌倉時代・江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

上小名田遺跡は、六甲山系の北側、武庫川の支流である八多川によって形成された比較的狭い標高一九〇m前後の冲積地に位置する。発掘調査は、六甲北有

料道路の建設に伴い一九八七年度より三次にわたって実施した。この調査により、

一〇～一三世紀にかけての掘立柱建物三四棟をはじめ、土坑・溝・自然河道などが検出された。また、道路建設に伴う河川改修部分の谷

兵庫・上小名田遺跡

かみおなだ

間の狭小な平地部では、平安時代末以降の水田、木簡が出土した江戸時代の溝が検出された。

木簡が出土した溝は、幅約二m、深さ約一・八mで、断面はV字形を呈している。埋土には平安～鎌倉時代の土器も含まれるが、伊万里焼・丹波焼の出土から、江戸時代の末頃に埋没しており、おそらく江戸時代に設けられた灌漑水路と考えられる。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「 小 ノ 多村カ 」

□ □ ○

103×37×10 011

木簡は墨痕が薄く、多くは判読が困難である。一二三字目は「ノ多」と読み取れるが、一文字で「名」の可能性もある。なお、木簡の上部には一边約七mmの方形の孔が穿つてある。

（菅本宏明）